

令和4年度 本校の取組の方向性

「限られた時間の中での質の高い学びの実現」「児童や教職員にとっても持続可能な学校の実現」

国においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現による「令和の日本型学校教育」の構築が掲げられ、本市でも、質の高い学びの実現がより一層求められています。

一方で、令和の時代にふさわしい持続可能な学校への変革も欠かせません。本市では平成30年に策定した「教職員の働き方改革プラン」等に基づき、業務の適正化・精選やチーム体制の構築・人員配置の充実をはじめとする取組を総合的に推進してきました。本校でも、具体策を講じながらメリハリをつけた質の高い学びの実現に努めます。

豊かな心の教育の推進

- ・具体的な取組や体験活動を通じた人権学習の充実
- ・ペア学年での活動の実施
- ・左近山特別支援学校との交流
- ・芸術鑑賞会の実施

授業力の向上

- ・交流を通して、相手意識を明確にして分かりやすく伝えたり、聞いたりして自分と比べることの意識化
- ・教科で目指す資質能力と教育課程全体で育成を目指す資質能力との関連を図りながらの授業改善

保護者・地域とのかかわり

- ・「地域人材バンク」※⁶の活用を図りながら、地域と関わる活動の実践化
- ・キャリア教育※⁷の視点を踏まえた年間指導計画を基にした意図的、計画的な活動の実施
- ・「自分づくりパスポート」※⁸への記録を通しての「自分らしさ」への気付きの促進

特別支援教育

- ・課題を抱える児童へのチームでの適切な支援・指導
- ・教室環境や授業のユニバーサルデザイン※⁷についての共通理解

児童指導力の向上

- ・「『めざそう左近山の子』～安心で安全な学校生活を送るために～」を毎月の生活目標にした重点化指導
- ・「左近山小スタンダード」※⁹の定期的な振り返り及び改善
- ・Y-Pプログラム※⁹年間計画をもとにした児童理解や集団理解を深める支援体制の構築

体力アップの実施

- ・コロナ禍でもできる体力向上につながる運動の検討
- ・コロナ禍を踏まえた再編カリキュラムをもとにした授業の実施及び改善

いじめへの対応

- ・事例研修等を通しての教職員の「いじめ」認知感度の向上と未然防止の取組の実施
- ・児童の些細な言動を見逃さない毅然とした対応の共通理解
- ・諸会議、いじめ防止委員会での検討を生かした支援・指導及び継続的な見守り

職員の資質・能力向上

- ・自らの資質・能力を分析し、振り返り、高めるためのセルフマネジメントの推進

業務改善による教材研究の時間確保

- ・業務時間内での教職員の裁量のある時間を確保することによる教材研究及び事務時間の確保

その他

- ・留守番電話時間の変更〔7:45～17:30〕による業務に集中する環境の整備
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じての可能な諸行事の実施

など



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～

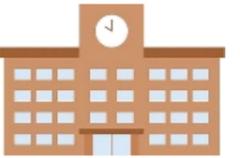
令和4年3月17日

横浜市立左近山小学校
Sakonama

特別号

中期学校経営方針に基づく学校評価結果〔年間〕

昨年度の自己評価結果を生かし、本年度も中期学校経営方針に基づいた本校教育活動の計画・運営を行ってまいりました。1月から2月にかけて年間を振り返りました。12月に実施した児童・保護者アンケートの結果も併せてご報告します。



☞本校の中期学校経営方針については本校 HP を参照

重点取組分野	具体的取組の自己評価結果
豊かな心	①「ふわふわ言葉」「いいところ見つけ」等の活動を通して、児童の心を養うことができた。②特別支援学校との交流は情勢を踏まえた内容での実施となったため、全学年で取り組んだが交流を深めることはできなかった。芸術鑑賞会を実施できなかった。
生きてはたらく知	①日々の授業での系統表の活用は難しく、定着できなかった。今後は系統表※ ¹ を、資質能力の育成のための参考資料とする。②コロナ禍の現状を踏まえ、本校での交流の在り方を確認し、可能な限り取り組んだ。今後も、情勢に応じて改定していく。
未来を創る思い	①コロナ禍の中、地域と関連させて学習に取り組む姿は見られた。実践例や地域人材を集約した資料を全体共有し、さらに推進する。②職員でキャリア教育※ ⁷ の考え方を理解し、年間計画を作成した。今後は学習、生活、行事等でめあて、振り返りを意識し、キャリア形成の日常化を図る。
特別支援教育	①通級指導教室と連携して、担任は児童のアセスメントを行い、具体的な支援方法を検討し、実施した。②学年毎に教室を確認し、感覚過敏の児童にも配慮した環境整備を行った。職員間での共有の内容については、今後見直ししていく。
児童指導	①児童の振り返りから翌月の生活目標を選択し、取り組んだことで、児童・教師ともに意識が高まった。②具体的な子どもの姿とアンケートデータを関連付けて支援検討することで児童指導に役立てた。さらに、Y-Pプログラム※ ⁹ 実施・振り返りまでを実施する態勢を整えたい。
健やかな体	①可能な限り体力アップタイムの時間確保に努め、運動（ラジオ体操）に取り組んだ。休み時間の用具の貸し出しにより外遊びの環境を整えた。②感染症対策を講じたり、教育課程を再編したりして、授業改善を図った。指導資料を職員全体で共有することで指導に役立てた。
いじめへの対応	①研修等で職員のいじめへの意識を継続的に高め、児童の些細な言動を見逃さず、保護者と連携しながら対応した。未然防止や初期対応にも取り組んだ。②諸会議で情報共有し、チームとして指導の方向性を検討した。緊急時には臨時会を開催し、迅速な対応に努めた。
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンター研修※ ⁴ に中堅職員がかかわり、よりよい学びができた。②研修は資質・能力向上に役立ったが、多くの時間を要したので、全体共有が不可欠な内容に絞る。今後は職員各自でキャリア形成に努め、資質・能力の向上を図る。③以前に比べ教材研究の時間は確保できたが、さらに裁量の時間を生み出し、各自で研究・研修に励む。

※¹確かな言語能力の育成に迫る資質・能力の系統表…低・中・高学年別に求めている子どもの具体的な姿を、身に付けさせたい資質・能力ごとにまとめた表

※⁷キャリア教育…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

※⁹Y-Pプログラム…「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の略称で、本来、家庭や地域や近隣社会において経験すべき、様々な体験を十分にしない社会状況ある子どもたちに、これらの体験（横浜プログラムでいう「被受容体験」「群れ体験」「群れ合い体験」の三基本体験）を学校・学級集団の場で経験させ、社会性を育てていくことを目的にした本市独自のグループアプローチ

※⁴メンター研修…先輩が新人をサポートする研修のこと。メンターとはもともと助言者という意味であり、年齢や業務経験の近い先輩が新人の仕事における不安や悩みの解消、業務の指導・育成を担当する。

※⁶地域人材バンク…社会科、生活科、総合的な学習等を学習する際にご協力いただくために作成した地域人材リストで、地域で様々な知識や技術・特技・経験を身に付けた方々を継続して登録していくリスト

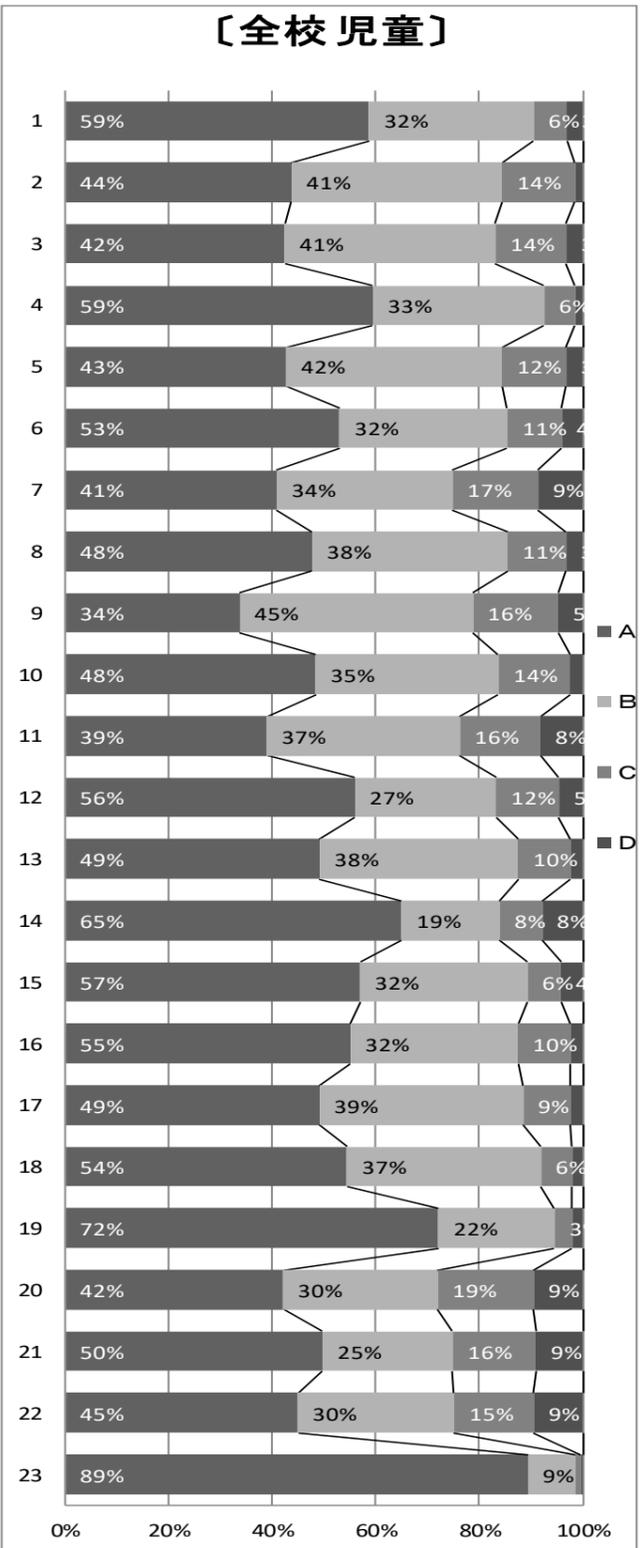
※⁸自分づくりパスポート…子どもたちが小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる活動について記入し、記録を保管するもの

※⁷ユニバーサルデザイン…文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がい・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報設計（デザイン）のこと。すべての人々にとっても使いやすいデザイン

※⁹「左近山小スタンダード」…児童が安全で安心した生活を送れるようにするためのルールブック

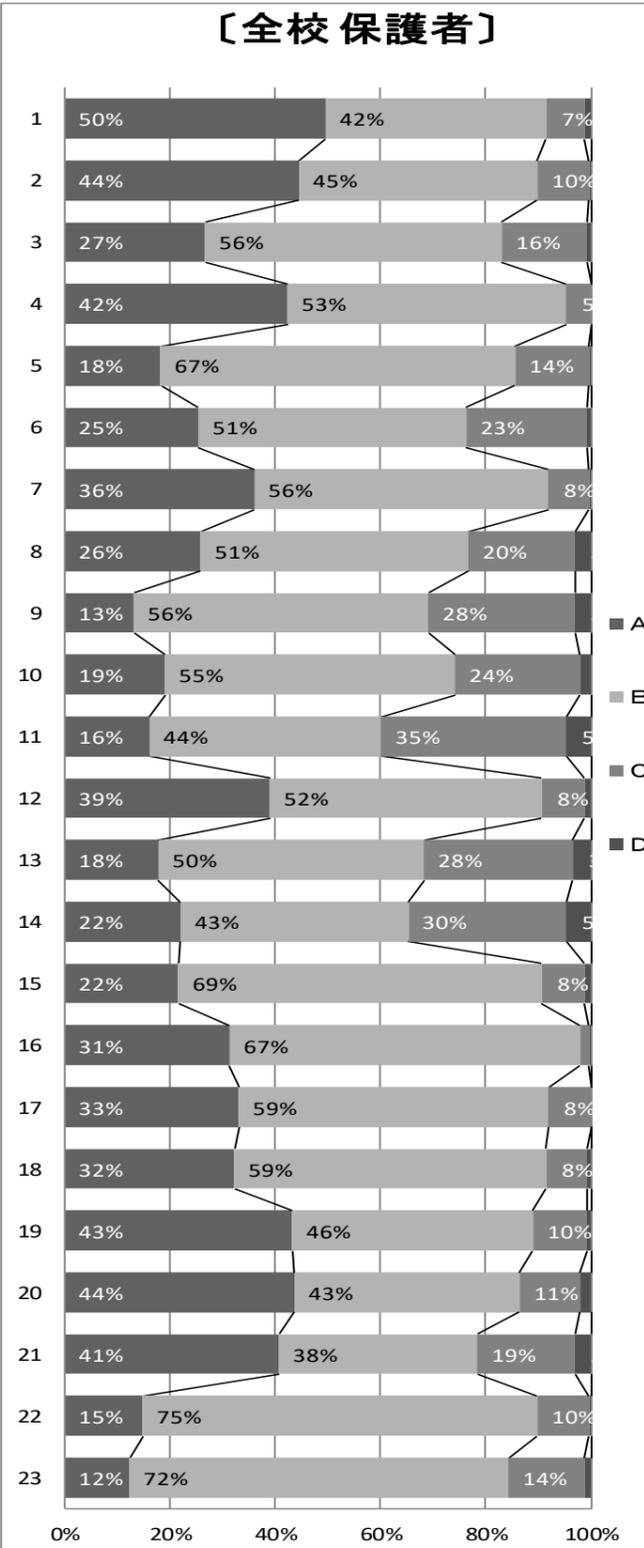
昨年度同様ガイドラインに則り、児童、職員が安全で安心して教育活動に取り組めるように努めた。一方で、コロナ禍により、中学校ブロックとしての一貫性が損なわれそうになったり、地域と関わる機会や地域とつながる活動が減ったりした。中学校ブロックとして目指す子ども像を共有しながら、地域の温かい支援を得た「まちとともに歩む学校づくり」は学校教育目標実現には必要不可欠である。創立10周年を機に、本校の方向性を職員で再確認する。なお、来年度もコロナ禍は想定されるが、教育懇話会から移行する学校運営協議会からの協力も得ながら、具体的取組を通して、実績を着実に積み上げていきたい。

重点項目	No.	項目	A	B	C	D	合計	A	B	C	D
学校教育目標	1	学校が楽しい。	346	187	38	18	589	59%	32%	6%	3%
	2	ものごとくに一生けんめい取り組んでいる。	258	240	83	9	590	44%	41%	14%	2%
	3	ものごとを最後までやりとげている。	251	241	81	19	592	42%	41%	14%	3%
「豊かな心」	4	友達と協力して活動している。	352	196	35	9	592	59%	33%	6%	2%
	5	友達の気持ちを考えて、優しい言葉づかいで話している。	252	246	73	19	590	43%	42%	12%	3%
	6	友達や先生、まちの人たちに、あいさつを自分からしている。	313	191	62	24	590	53%	32%	11%	4%
「生きてはたらく知」	7	自分にはよいところがある。	242	201	98	51	592	41%	34%	17%	9%
	8	授業がよく分かる。	282	223	67	19	591	48%	38%	11%	3%
	9	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	198	265	97	28	588	34%	45%	16%	5%
「未来を創る思い」	10	友達と考えを出し合ったり、話し合ったりして学習している。	285	208	81	15	589	48%	35%	14%	3%
	11	まちの活動に参加したり、まちの人、もの、ことを活用した学習に楽しく取り組んだりしている。	229	219	92	48	588	39%	37%	16%	8%
	12	自分はその役に立つことが好きである。	330	161	72	27	590	56%	27%	12%	5%
「特別支援教育」	13	クラスや自分のめあてに向かって取り組んでいる。	291	227	60	14	592	49%	38%	10%	2%
	14	将来の夢や目標をもっている。	381	111	48	46	586	65%	19%	8%	8%
	15	何か分からないとき、困っているときに、先生は相談にのってくれる。	336	191	38	25	590	57%	32%	6%	4%
「児童生徒指導」	16	毎日、安心して学習したり、生活したりしている。	325	191	60	14	590	55%	32%	10%	2%
	17	学校やクラスのまきまを守っている。	290	233	54	14	591	49%	39%	9%	2%
	18	友達や家族との約束を守っている。	322	221	36	12	591	54%	37%	6%	2%
「健やかな体」	19	みんなでいろいろな活動をするのは楽しい。	425	132	20	12	589	72%	22%	3%	2%
	20	「早寝」「早起き」「朝ご飯」に、毎日進んで取り組んでいる。	249	176	110	56	591	42%	30%	19%	9%
	21	放課後や休日など、積極的に体を動かしている。	293	148	95	53	589	50%	25%	16%	9%
「いじめへの対応」	22	いじめなこと(暴力・暴言・無視などのいやがらせ)がなく学校生活を送っている。	266	179	91	56	592	45%	30%	15%	9%
	23	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	525	54	6	2	587	89%	9%	1%	0%



回収率が83%→97%で14ポイント増加しました。23項目中19項目で肯定の回答が、昨年度に比べ微増しました。項目1「学校が楽しい」への肯定の回答は、昨年度に比べ89%→91%で2ポイント増加しました。さらに、増加が顕著だったのは、項目3「根拠」は78%→83%で5ポイント、項目6「挨拶」は79%→85%で6ポイントでした。概ね肯定的な回答が増加したのは、児童なりにコロナ禍での新生活様式に慣れたこと、制約下での教育活動であっても充実した学校生活を送ろうとしていた思いの表れだと感じました。一方で、項目14「夢や目標」は84%→74%で10ポイント激減、項目16「毎日の安心感」は90%→87%で3ポイント減少したのは、新型コロナウイルス感染症拡大の繰り返しによる、収束が見通せない現状への焦燥感、日常を取り戻すことができていない不満感が考えられました。児童へのストレスが高まってきていることは否めません。まだ続くと思われるコロナ禍でも、まずは家庭で規則正しい生活を励行していただき、朝、子どもたちを気持ちよく送り出していただけると有難いです。学校ではこれまで以上に、家庭と連携を密にして、常に子どもの心に寄り添い、心の安定を図っていきます。

重点項目	No.	項目	A	B	C	D	合計	A	B	C	D
学校教育目標	1	お子さんは、「学校が楽しい。」と言っている。	117	99	17	3	236	50%	42%	7%	1%
	2	お子さんには、一生懸命取り組んでいることがある。	105	107	23	1	236	44%	45%	10%	0%
	3	お子さんは、物事を最後までやり遂げている。	63	133	38	2	236	27%	56%	16%	1%
「豊かな心」	4	お子さんは、協力して物事に取り組んでいる。	100	125	11	0	236	42%	53%	5%	0%
	5	お子さんは、礼儀・言葉遣いなどの生活習慣が身に付いている。	43	159	33	1	236	18%	67%	14%	0%
	6	お子さんは、進んであいさつをしている。	60	120	54	2	236	25%	51%	23%	1%
「生きてはたらく知」	7	家庭では、お子さんのよいところをほめている。	85	132	18	1	236	36%	56%	8%	0%
	8	お子さんは、家庭での学習習慣が身に付いている。	61	120	48	7	236	26%	51%	20%	3%
	9	お子さんは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	31	132	66	7	236	13%	56%	28%	3%
「未来を創る思い」	10	お子さんは、いろいろな場で、自分の考えや思いを相手に伝えている。	45	130	56	5	236	19%	55%	24%	2%
	11	お子さんは、地域の行事に進んで参加している。	38	104	83	11	236	16%	44%	35%	5%
	12	お子さんは、人の役に立つことが好きである。	92	122	19	3	236	39%	52%	8%	1%
「特別支援教育」	13	お子さんは、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	42	119	67	8	236	18%	50%	28%	3%
	14	お子さんは、将来の夢や目標をもっている。	52	102	71	11	236	22%	43%	30%	5%
	15	学校は、一人ひとりを大切にしたい教育を行っている。	51	163	19	3	236	22%	69%	8%	1%
「児童生徒指導」	16	学校は、子どもが安心、安全に学校生活を送れるように環境整備を行っている。	74	157	4	1	236	31%	67%	2%	0%
	17	お子さんは、まきまを守って生活している。	78	139	19	0	236	33%	59%	8%	0%
	18	お子さんは、友達や家族との約束を守っている。	76	140	18	2	236	32%	59%	8%	1%
「健やかな体」	19	お子さんは、人とかわかることが好きである。	102	108	24	2	236	43%	46%	10%	1%
	20	お子さんは、「早寝」「早起き」「朝ご飯」の生活習慣が身に付いている。	103	101	27	5	236	44%	43%	11%	2%
	21	お子さんは、外で体を動かしたり、運動に親しんだりしている。	96	89	44	7	236	41%	38%	19%	3%
「いじめへの対応」	22	学校は、いじめや差別に対して、毅然とした対応をしている。	35	177	23	1	236	15%	75%	10%	0%
	23	家庭では、いじめについてお子さんと話し合っている。	29	170	34	3	236	12%	72%	14%	1%



昨年度同様、本校の取組に対して概ね肯定の評価をいただきました。項目1「学校が楽しい」は93%→92%で1ポイント微減、項目15「一人一人を大切にしたい教育」は93%→91%で2ポイント微減、項目16「安心、安全な環境整備」は96%→98%で2ポイント微増しました。コロナ禍での制約ある教育活動となっていますが、保護者の皆様がお子さんを学校に安心して登校させてくださっていたことが感じられました。さらに、項目11「地域への参画」は52%→60%で8ポイント増加、項目5「挨拶」は80%→85%で5ポイント増加、項目12「自己有用感」は85%→91%で6ポイント増加しました。学校ではコロナ禍の中でも地域と関連させた学習を行うことで地域とつながったり、地域では新型コロナウイルスの感染拡大防止策を講じて、工夫ある取組をしてくださったりしている結果かもしれません。また、子どもたちがコロナ禍での新生活様式に慣れてきたことで、自分だけではなく周囲にも気持ちが向き、挨拶をしたり、人の役に立ちたいと思う子どもが増えてきたのかもしれません。